

令和元年度和歌山県立紀伊風土記の丘評価

<p>紀伊風土記の丘館長による評価</p>	<p>岩橋千塚の保存整備・公開、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育普及など多様な業務がある中で、緊急性の高い業務を適切に選択して実施することで、着実に考古・民俗文化財の保存と活用を前に進めることができている。</p> <p>活用目的の天王塚古墳の整備では、着実に前に進めることができている一方で、保存目的の古墳修景は進捗が遅く石室の崩壊も危惧されることから、実施数量を増やす等の対策が必要である。</p> <p>学習支援、教育普及活動については、全国的にみても有数の質と量を備えている。出前授業では、広報の効果もありこの数年支援学校や保育園の利用者が増加傾向にあるが、他業務を圧迫しないような体制の確立が必要とされる。</p> <p>博物館運営については、開館後47年を経過した資料館は老朽化が著しく、現在の文化財の展示・収蔵環境を満たさない面も多いが、可能な範囲で環境改善に向けた精一杯の努力がなされている。昨年度、新館建設に係る基本計画の策定がほぼ完了し、用地の購入事業も進めているところであるが、これ以後の新館建設業務は現体制では実施不可能な内容と作業量であり、大規模な体制整備なくして業務の達成は望めない。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>館長評価と同様であり、多方面にわたって活発に活動しているのはすばらしい。特に新館建設は、施設が老朽化し手狭になってきているので、「考古民俗博物館」として大幅に改良・リニューアルされることは時期を得た英断と言えるが、長期的な展望に立って、しっかり取り組むべきで、そのための体制づくりを切に望む。利用者の内訳を見ると、障害者の利用がもっとあっても良いかと思う。風土記の丘の立地条件もあり、致し方ないとも言えるが、他方では資料館の構造や容量の問題も関わると言えるかもしれない。新博物館での具体化が望まれるところであるが、そのためにも体制の充実が必要である。</p> <p>天王塚古墳の整備・活用については、今後の展開に大いに期待している。教育普及活動では、小中学校を中心とする各種の教育関連機関の利用者数が少子化の影響もあって全国的に低下傾向を見せている中で、検討している館の一つと感じている。</p> <p>「特別史跡」であることをさらにPRし、学術性と広い意味でのビジネス性を備えた運営の努力が、各担当の努力とともに追求されている。また、日本の「古墳」が、国際的な学会の中で大きな注目を浴びていることから、関空からのアクセスも考慮して、学術・観光の両面で国際的な展開を目指すことを望みたい。</p>

# 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

館長による所見	<p>概ね計画どおりに整備事業を進めることができています。天王塚古墳の整備では、平成29,30年度に実施した発掘調査の出土遺物等整理を実施したが当初計画より報告書の刊行が遅れている。これは想定以上の出土量に伴う作業量の増加や玉類の分析が追加となったためであるが、展示や整備事業がある中で適正な資料の整理、分析、評価ができています。また、整備計画では、公開に向けて最も懸念される石室の安定性解析を行い、限定公開の方針を決定することができた。連絡道路の建設は、国の予算の関係で工程が遅れているが、実施設計完了予定の令和3年度末には完成し全体工程に影響を与えないよう進める必要がある。</p> <p>保存のための整備事業は、計画どおり崩壊危険度の高い古墳の埋め戻しと支障木の伐採を行ったが、全体数量が多いことから継続的により多くの古墳について実施していく必要がある。</p> <p>この他、保存活用計画に従い、古墳カルテの更新及び石室のモニタリングを実施するなど、適正な管理ができています。石室の安定性が懸念される古墳が多く安全性への影響もあることから、今後も注視して必要に応じて緊急整備を行える体制を整備しておかなければならない。</p>
評価部会による所見	<p>岩橋千塚古墳群は和歌山県の歴史を全国にアピールできる存在で、着実に整備を進めるべき事業である。岩橋千塚古墳群は特異な構造をもつ地域性の強い横穴式石室をいかに「生」の形で安全に提示できるかという点に大きなポイントがある。現在は、両者をバランス良く実現しようと努力されている。</p> <p>管理面では、ほぼすべての古墳をカルテ化して日常管理や修理・整備方針に活かしている点でかなり充実してきたと評価して良いと思われる。</p> <p>整備面では、天王塚古墳の石室の限定公開が決まったことは良かった。これ以外の小古墳群も岩橋千塚の価値の重要な要素なので、適正に記録し保存に力を注いでほしい。一方で岩橋千塚古墳群が数多くの古墳からなることを視認することも重要である。また、副園路への誘導やここを通るとどのような古墳に巡りあえるかなどの情報提供も必要である。地形的に難しい点はあるが、管理用道路の狭さや排水などの問題がありそうなので、継続的に方策を考えていく必要がある。</p>

## ①古墳群の維持管理

### A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和元年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に実施。急を要する場所が出た場合は優先的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。
自己評価・課題・改善案	職員による日常的な施設及び園内の目視確認を実施するとともに優先順位をつけて整備し、点検・修理箇所を毎日記録した。今後も引き続き月単位、週単位で予定を立てて実施する。

### B. 古墳群の日常的な保守管理

令和元年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施。特に草木の伐採は優先順位をつけて実施。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。
自己評価・課題・改善案	館の業務員により日単位、週単位でメンテナンス必要部分を確認し、学芸員と相談しながら優先順位をつけて草木の伐採、剪定及び施設内の必要箇所の修理を行った。

## ②保存・整備

### A. 使命・計画に基づいた保存整備

令和元年度目標	第2期整備計画に基づき整備を実施する。天王塚古墳については、発掘調査の成果を受け整備計画の策定を行い、整備の方針を決定するとともに、保存活用計画で定めた応急的な整備が必要な古墳に対し早急に対応する。
自己評価・課題・改善案	天王塚古墳については、整備計画を策定する際に石室公開の可否を判断するための安定性解析が必要となった。基本設計着手に向け十分な結果が得られたが、年度末までの時間を要したため取りまとめができず、完成予定が令和2年7月となった。基本設計は予定通り令和2年度中に完了し、全体計画に影響を与えないよう進めることとする。これ以外の整備事業については予定通り実施することができた。

### B. 古墳群の整備・修景

令和元年度目標	整備委員会の指導を得ながら天王塚古墳への連絡道路の設置事業を行う。事業は国庫補助を受けて実施。
自己評価・課題・改善案	国庫補助の大幅なシーリングがあり予定の半分程度の実施となった。また、当館の発注体制が整わなかったこともあり、予算を繰り越して実施することとなった。天王塚古墳の整備計画に影響がないよう、道路建設の予算の取得及び施工管理を実施していく。

### C. 展示及びその他の博物館活動への反映

令和元年度目標	発掘調査・整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに県民及び県外の人たちへの広報を行う。
自己評価・課題・改善案	今後の整備事業に活用できるよう今年度から大日山35号墳の復元埴輪(円筒埴輪)を計2回県民参加のイベントにより製作・焼成した。今後は大日山35号墳の具体的整備方針を定め、資料館と岩橋千塚古墳群の活動が一体となるような県民参加の整備を進める。

### D. 学術的公表(報告書等)がなされているか。

令和元年度目標	天王塚古墳発掘調査事業を実施し報告書を刊行する。
自己評価・課題・改善案	計画どおり天王塚古墳の出土遺物整理を進めたが、新たに玉類の分析が必要となったため期間を延長することとなった。年度内に報告書を取りまとめ、令和2年6月までに印刷・刊行する予定である。

### E. 古墳群の保存活用計画の策定

令和元年度目標	保存活用計画概要版を作成する。古墳カルテなど必要な調査を行い更新する。
自己評価・課題・改善案	整備検討会及び文化庁担当官の意見を聴取しながら、保存活用計画概要版を策定した。古墳カルテについては、2年で全量を更新する計画である。今年度は計画どおり約半数の現況確認を行い、データを更新した。

## ③公開・活用

### A. 計画的な公開

令和元年度目標	公開古墳を定め石室等を見学できるようにする。非公開古墳は期日を定めて引き続き石室を公開し、県民に周知する。
自己評価・課題・改善案	公開古墳を定め、常時石室を公開するとともに見学しやすいよう維持管理した。非公開の前山A67号墳を9月22日、郡長塚を10月27日に公開した。いずれも好評であり、今後も安全面を十分確認しながら限定公開を行う。

### B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

令和元年度目標	アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握する。園内散策者については園路設置の意見箱を活用する。意見箱の周知についてホームページで広報する。
自己評価・課題・改善案	園内散策者については園路設置の意見箱で情報を収集するとともに口頭での聞き取りを行った。意見箱には特段意見はなかったが、散策者や学校関係者、ボランティアからは、石室の公開見学など様々な体験ができる点を高く評価する意見が目立った。意見箱の存在について周知するとともに館内のアンケート用紙に古墳群整備に関する項目を追加しより多くの意見を収集する。

### C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

令和元年度目標	アンケート分析結果について検討し、可能な範囲で公開活用に反映する。
自己評価・課題・改善案	日頃からイベントなどでのアンケート並びに聞き取りを行った結果を分析し、次年度のイベントに反映できるよう努める。

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

館長による所見	<p>資料の収集、保存、保存環境の整備ともに現状の範囲では適正に実施できているが課題も多い。</p> <p>資料の収集については、価値の高い資料の寄贈・寄託依頼があった場合に対応できる収蔵スペースが不足している。令和2年度までに蔵書を整理することによりスペースを確保する計画であるが、スペース不足を理由に必要な資料の受け入れができない事態は避けなければならない。また、散逸している岩橋千塚古墳群出土資料の収集については、一部令和2年度に購入の道筋を付けることができたが、引き続き散逸することがないように継続的に購入できる予算を確保していかなければならない。</p> <p>資料の保存については、鉄製品や木製品の保存処理を始め、大日山35号墳出土重要文化財の補強材の劣化が目立ち始めているため、埴輪類の修理が必要である。その他、台帳整理とデジタル化を進めることにより、より効率的に保存状態の把握をすることができるため、これらを一体として新館建設関連事業として事業化していくべきである。</p> <p>保存環境については、重要文化財にとって適切な温湿度環境整備、防犯・防火対策が必要であり、新館の建設を遅延なく進めることが重要である。</p>
評価部会による所見	<p>適切かつ効率的に事業は進んでおり、担当者は研究上の強い問題意識をもって取り組んでいる。収集・保存には原則として先延ばしをしないようにすべきであるが、現資料館では収蔵スペースに限りがあり、資料収集もままならないので、抜本的な課題解決については、新館建設に期待するところ大である。また、保存処理後の経過観察もルール化してほしい。</p> <p>今後は保存対象が拡大する一方、市町(自治体)の収集・調査・保管能力や民間のそれが低下する可能性も大きく、そのために県の機関・施設の果たす役割が大きくなると思われる。新館が県博などどのような役割を分担していくか、考えていく必要がある。</p>

### ①資料収集

#### A. 適正な手続きに基づく資料の収集

令和元年度目標	適正な手続きに基づき資料を収集する。資料収集方針について検討する。
自己評価・課題・改善案	<p>資料所有者の依頼に応じて、担当学芸員が過去の実績、現在の収蔵資料及び収蔵施設のスペース等の現況を考慮し、学芸課内で慎重に判断した上で寄贈及び寄託を受けた。</p> <p>県内資料を中心に資料を受けいれているが、資料収集方針についてはさらに検討が必要である。一方、保存状態の悪化等により早急な資料の購入が必要な資料もあるため、今年度に一部購入し館蔵品として保存する。来年度以降もその後も継続的に予算化できるよう準備を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考古資料 寄贈: 岩橋千塚古墳群調査原図15点(個人)、書籍263点(個人)、 県内考古資料等247件(個人)</li> <li>・民俗資料 寄贈: 県内民俗資料84点(個人)、釜4点(個人)、櫃・桶・盆等15件17点(個人)、 犁等4件5点</li> </ul>

### ②資料の保存

#### A. 資料の保存環境は適切か。

令和元年度目標	温湿度データを取得しながら壁面ケース等湿度管理のできない展示ケースについての対応策を検討する。
自己評価・課題・改善案	<p>重要資料については優先度の高い順に湿度管理が可能なエアタイトケース及び改修済みの収蔵庫で展示・保管している。これ以外については、土製品、石製品等温湿度変化の影響が少ない資料を中心に、壁面ケース等を利用し展示・収蔵している。</p> <p>各展示ケース、収蔵庫で温湿度データを取得しその対応を検討中であるが、根本的には展示・収蔵施設の24時間空調の設置等が必要で大規模な改修となるため、早期の新館建設により対応すべき課題と考える。</p>

#### B. 資料の保存処理

令和元年度目標	岩橋千塚古墳群出土品を中心に保存処理が必要な金属器等資料のリストアップを行い、予算状況に応じて順次保存処理を実施するとともに、保存処理の優先順位が低い資料についてはRPシステムで応急措置を行う。
自己評価・課題・改善案	保存処理を要する資料の確認を行った。予算の関係上保存処理は実施できなかったが、RPシステムでの応急措置を行える体制を整えることができたため、来年度から未処理の鉄製品及び木製品の応急的な措置を行っていく。

### C. 資料の整理

令和元年度目標	天王塚古墳の出土遺物整理事業を実施し報告書を刊行する。この他、寄贈・寄託資料の整理を実施する。
自己評価・課題・改善案	計画どおり天王塚古墳の出土遺物整理を進めたが、一昨年石室内で採取した土から数千点に及ぶ玉類がされた。昨年度追加で分析を行う必要が生じたため、令和2年度に一部整理作業と報告書刊行業務を繰り越して実施することとした。 寄贈・寄託資料の整理については、十分とは言えないが博物館実習のメニューとして実施するなど少しずつ前に進めた。

### ③資料の管理

#### A. 資料の点検

令和元年度目標	毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検を行う。
自己評価・課題・改善案	チェックシートを作成し、学芸員が開館前、閉館前に目視点検により、展示資料及びパネルの異常の有無の確認、照明の交換、害虫の除去、温湿度データの収集などを行った。今後も引き続き実施していく。

#### B. 資料の管理(台帳、データ)

令和元年度目標	近年の収蔵資料について資料台帳・データベースを作成し、管理を行う。
自己評価・課題・改善案	近年調査・整理した遺物及び県教育委員会収蔵庫より移動した木製品等については、一部のみ実施することができたが、残りの作業は膨大である。このため、令和2年度に資料整理を優先的に実施する体制の整備を行うこととした。

### ④資料の活用

#### A. 他機関への資料の貸出

令和元年度目標	他機関への収蔵文化財の貸出を行い、収蔵文化財の活用を推進する。
自己評価・課題・改善案	高槻市立今城塚古代歴史館、岩出市教育委員会、かつらぎ町教育委員会、有田市教育委員会へ出土遺物の貸出を行い活用を推進した。今後も引き続き収蔵文化財の貸出を行い、和歌山県の資料を広くアピールできるよう努める。

#### B. 図書の収蔵

令和元年度目標	報告書等の寄贈図書を適切に登録・管理する。収蔵場所についてはその方針を検討する。
自己評価・課題・改善案	寄贈図書等が多く、十分な活用ができる環境にないのが現状である。適正に管理・整理するためには収蔵場所の抜本的な見直しが必要であるが、現状で新たな収蔵場所を確保するのは困難であることから、使用頻度の低い図書を収納し、使用頻度の高い図書を有効に活用できるよう整理作業に着手した。作業量が膨大であるため、令和2年度まで継続実施する予定である。

#### C. 資料のデータベースの公開

令和元年度目標	近年の追加資料のデータを整理後公開する。
自己評価・課題・改善案	データ整理まで実施することができなかった。令和2年度の台帳整理完了後ホームページに掲載する予定である。

### 3. 調査・研究及び展示・公開

館長による所見	特別展示とそれに関連する調査・研究については、ほぼ計画どおり実施できている。企画展等を含むそれ以外の調査・研究については、遠足及びイベント、史跡整備、その他の業務で十分な時間的余裕がない状況である。当館は一般的な博物館学芸員とは業務内容が大きく異なるが、新館建設に向けて予算の確保、業務量の整理、人員の確保などの体制整備を行い、科学研究費の助成を受けることができる研究機関を目指す必要がある。
評価部会による所見	人員・予算ともに厳しい状況の中で努力がされている。調査研究の重要性は博物館運営の要である。外部機関との共同調査・研究は、今後とも積極的にすすめてほしい。現状は時間的余裕がなく十分に行われていないとのことだが、寧ろ職員数からみて実によくやっているという感嘆を禁じえない。 新館建設と絡めて考えると、3～4年単位でまとまる和歌山県域の特徴を押さえたプロジェクト研究を2つくらいずつ発進させ、館外の人材との協同による調査研究の推進とその成果発進を図っていく必要がある。是非、科研費の取れる博物館にしてほしい。 今後はニーズをいかにリサーチして次の活動に活かすことができるかが必要となる。感染症と「共存」する社会の当該活動を具体的に考える必要がある。

#### 3-1. 調査・研究

##### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

令和元年度目標	各機関へのアンケート、文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行った上で、展示等へ反映する。
自己評価・課題・改善案	特別展「開かれた棺－紀伊の横穴式石室と黄泉の世界－」の展示に関連する悉皆調査及び研究を行った。この他、企画展の開催に関連して、民俗分野では犁について、考古分野では古墳から古代寺院への変化と埴輪及び須恵器の窯跡から資料から見える古墳時代について調査研究を行った。これ以外の基礎調査・研究が可能な体制を整えることが今後の課題である。

##### B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

令和元年度目標	環境整備に向け検討を進める。
自己評価・課題・改善案	東北大学と東北アジア研究センター災害人文学ユニットによる熊野の祭り関係用具の3次元計測調査にかかる共同調査・研究を実施した。新館建設に向け、共同研究が可能な体制づくりを行っていく必要がある。

##### ②調査・研究成果の活用

##### A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

令和元年度目標	調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県民に広報する。
自己評価・課題・改善案	当初予定どおり調査・研究成果を特別展や講座等に反映した。各企画展では展示講座を開催し、特別展では、シンポジウム2回、関連講座2回を実施することで展示内容を広く県民に広報した他、特別展関連ワークショップとして「ビーズアクセサリーづくり」、「古墳ガイドツアー(郡長塚古墳の石室)」を開催し、展示への理解が深まるよう努めた。今後も展示と関連したイベントを企画していく必要がある。

##### B. 学術的公表(館研究紀要、学会誌等)

令和元年度目標	館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。
自己評価・課題・改善案	当初予定どおり館研究紀要を刊行し、調査・研究成果を公表した。

#### 3-2. 展示・公開

##### ①常設展

##### A. 計画的な展示替え

令和元年度目標	特別展後などの期間を利用し、岩橋千塚を中心としながらも通史、県内の民俗文化財を把握できる展示とする。
自己評価・課題・改善案	特別展終了後には大規模な展示替えは実施できなかったが、石室写真などパネルを中心に追加展示し来館者の関心が高まるような展示を心がけた。引き続き小規模な展示替えを行うとともに、現状の展示資料のわかりやすい説明パネルやキャプションの多言語化表示にも力を入れていく必要がある。

## B. 計画的な保守・管理

令和元年度目標	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。
自己評価・課題・改善案	開閉館前にチェックシートを用いた点検を計画どおり実施した。また、常設展・特別展・企画展ではカメラで監視可能な範囲に資料を配置するなどの防犯対策を行った。平成31年4月に公開した県指定文化財である「日高地域の地曳網漁用具及び和船」の展示施設については、資料館から離れており監視カメラが設置されていないことから、外部からの見学のみとしている。令和2年度に監視カメラを設置し内部での見学を可能とする予定である。

## C. 入館者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)、満足度などの調査

令和元年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえよう、アンケートの内容や設置場所の改善、及び園内表示、声かけ等の工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケート調査を実施したが、特別展及び企画展がない常設展のみの期間は短く、有効な意見は取得できなかった。アンケートでは両者を区別する工夫等が必要である。

## D. 入館者の展示に対する満足度

令和元年度目標	アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で、適宜スポット展等を企画する。
自己評価・課題・改善案	常設展については、常設展のみの期間が短く来館者も少ないことから、有効なアンケート結果を得ることができなかった。より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫していきたい。 令和元年3月に文化庁主催のパネル展示「記念物100年」展を県内記念物の紹介を追加して開催した。

### ②特別展・企画展

#### A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

令和元年度目標	協議会、整備検討会の意見を受け適正に実施する。
自己評価・課題・改善案	協議会を2回、整備検討会を2回、当初計画どおりに実施した。

#### B. 図録・パンフレット等の作成

令和元年度目標	特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレットを作成する。
自己評価・課題・改善案	当初計画どおり作成した。今後、特別展の図録、ポスター、リーフレットだけでなく、企画展のリーフレットについても極力業者委託するなどし、広報を強化する。

#### C. 特別展見学者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)などの調査

令和元年度目標	アンケートにより把握する。より多くの入館者に記入してもらえよう、アンケート場所の改善や声かけ等の工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	特別展、企画展ともアンケート調査を実施した。特別展と一部の企画展では、受付時にアンケートを手渡した結果、回答数が大幅に増加しより幅広い来館者層の意見を入手することができた。常設展、特別展等どちらに対する意見かはっきりしない部分があり、両者を区別する工夫が必要である。

#### D. 特別展見学者の展示に対する満足度

令和元年度目標	アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で適宜スポット展等を企画する。
自己評価・課題・改善案	アンケート調査の結果、特別展では161件回答があり、満足度は5段階評価で、「とても満足」が53%、「満足」が39%、「ふつう」が3%、「少し満足できなかった」及び「満足できなかった」はそれぞれ0.5%、無回答が4%であった。上位2段階の評価が92%を占め、満足度は非常に高い。一方、企画展については、368件の回答があり、「とても満足」56%、「満足」が34%、「ふつう」が6%、「少し満足できなかった」及び「満足できなかった」はともに0%、無回答が4%であった。上位2段階の評価が90%を占めており、特別展同様、高い満足度が得られている。

### ③県民ニーズに即した運営

#### A. 資料館入館者数: 当該年度の入館者数

令和元年度目標	16,900人(前年比105%)。他府県も含め、来館のない小中学校を主に訪問しPRする。また、マスコミ活用や公共施設、商業施設へのポスター、チラシの設置等、広報の内容・方法を工夫し、より強化するとともに、県立学校や他の博物館が主催するイベントへ等へも出向きPRを行う。
自己評価・課題・改善案	17,891人(前年比111.3%)、1,818人の増加。目標値も達成できた。小学校団体が9校増加しているが、今後も引き続き、来館の状況を確認し来館のない学校へ直接訪問しPRを行う。

#### B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

令和元年度目標	700,000円(前年比105%)
自己評価・課題・改善案	778,250円(前年比116%)。目標値には達した。今後も引き続き有料入館者増加に向け、マスコミの活用やチラシ・ポスターの設置等広報活動を行う。

#### C. 外部助成金等を獲得

令和元年度目標	なし
自己評価・課題・改善案	なし

#### D. 調査結果を受けた運営

令和元年度目標	調査結果を受けて運営する。
自己評価・課題・改善案	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討したい。



#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

館長による所見	<p>学校教育支援については、小学生を中心にほぼ当初計画通りに実施できている。広報の成果もあり、支援学校や保育園、遠方の小学校などこれまでに依頼のなかった出前授業が増加傾向にある。他業務を圧迫しない範囲での実施又は体制づくりが必要である。生涯学習については、体験イベントと講座を計画どおり実施し高い満足度を得ることができている。参加者も増加している。</p> <p>一方で中学生及び高校生の来館者は少ない点が課題としてあげられる。職場体験の受け入れや出前授業、ジュニア考古学で中学生部門の設置など中学生の興味を引く機会は少ないながら設けているが、効果が得られていない。中学校及び高等学校と連携して中高生をターゲットにしたイベントを企画するなど、来館してもらうための方策を検討しなければならない。</p>
評価部会による所見	<p>小学生を中心とする共育支援は本博物館の強みであり、成果も十分にあげられている。常にニーズを掘り起こし、陳腐化をさける努力がなされている。</p> <p>博物館の将来像を少しずつ具現化するためにも「ジュニア考古学」などの事業が有効である。参加者は少なくとも続けていただきたい。体制面では、この項目を担当できる部署を設ける必要があるだろう。</p> <p>若い世代の中で、遺跡や古墳の「享受」の仕方が変わってきている。今後はいかにそれをくみ取り、過度におもねらない形での新しい展開や理念をもつ必要がある。</p>

##### ①学校・団体の利用

##### A. 学校・団体の受入数、受入人数。(一般団体除く)

令和元年度目標	6,500人(115団体)(前年度並み)。引き続き、県内、他府県及び各種団体へもPRする。訪問先の学校等では具体的なプランやカリキュラムへの位置づけを示す。また、引き続き、中高生へもPRする。
自己評価・課題・改善案	121団体 6,285人(目標値比102.6%)。学校数及び人数とも目標値を上回った。学校種の内訳として小学校が8校、中学校が4校増加したが、高校・特別支援学校で9校減少している。団体の受け入れを拡大できるよう引き続き学校等へ訪問し広報活動を行う。

##### B. 出前授業の件数、利用者数。

令和元年度目標	25件(前年度並み)。県内の遠方を含む来館実績のない学校等に出向いて出前授業の内容、カリキュラムへの位置づけ、具体的な単元設定の説明を行う。
自己評価・課題・改善案	30団体 1,025人(目標値比120.0%)。昨年度より5団体増加。広報活動で来館実績のない学校を訪問した際に「出前事業」の内容、カリキュラムへの具体的な位置づけ等の説明した。引き続き広報を行う。

##### C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数。

令和元年度目標	高校生及び大学生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる(前年並み)。
自己評価・課題・改善案	中学生職場体験3校11名、高校生インターンシップ5名(和歌山大学付属特別支援学校1名含む)受け入れ。中学生職場体験については、今後も受入学校数を勘案し継続して受け入れる。

##### D. 利用者の満足度、ニーズ

令和元年度目標	遠足等実施前後に教員等から遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校を訪問した際、校長等から聞き取りを行い、遠足実施の評価や新たなニーズを把握する。
自己評価・課題・改善案	事前打ち合わせの後及び実施後聞き取りを行った。体験学習等に関する改善要望は特になく、学習のねらい、内容のニーズに応えられている。今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行う。

## ②講演会・博物館講座・展示解説等

### A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数。

令和元年度目標	39回実施予定(前年比100%)。内容の充実を図る。
自己評価・課題・改善案	年度末にコロナウィルス感染症の影響で中止があり29回実施。今後も引き続き実施するとともにより講座内容の充実を図る。

### B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

令和元年度目標	募集定員の50%以上(前年度目標並み)
自己評価・課題・改善案	募集定員の52.8%(定員1,050人中555人参加)、参加率の低いイベントについての周知等、マスコミを利用してより強化し、参加者増を図る。

### C. 参加者の満足度、ニーズ

令和元年度目標	アンケートにより把握する。また、講演等終了後直接聞き取りを行う。
自己評価・課題・改善案	講座参加者を対象にアンケート調査を行った。満足度は5段階評価で「とても満足した」が53%、「満足した」が29%、「ふつう」が13%、「少し満足できなかった」が2%、無回答が3%であった。上位2段階の評価が82%を占め、満足度は高い。体験イベントよりやや評価が低いのは、小学生の回答を含んでいないことも一部影響していると思われる。引き続きニーズや満足度等の聞き取りを行いながら講座を実施していく。

## ③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム。

### A. 体験学習等の回数。

令和元年度目標	12種類、計40回(前年比98%)、体験に代わり講座を充実させる。体験学習は参加状況により例年どおり追加イベントを開催。園内ポスターやホームページ、マスコミ等により広報を充実させる。
自己評価・課題・改善案	9種類、計46回を実施(うち、追加イベント、計16回)。当初目標どおりの体験イベントを予定していたが、埴輪づくり開催の要望が多くあったため、追加イベントで計15回実施した。他業務に影響を与えない範囲で実施していく必要がある。

### B. 体験学習等の参加者数。

令和元年度目標	募集定員の80%以上(前年度目標並み)。人員、日程等を鑑み追加イベントを実施する。追加イベントについては十分な広報を実施し周知する。
自己評価・課題・改善案	募集定員の111.2%(定員1,810人中2,014人参加)で目標値を上回った。

### C. 参加者の満足度、ニーズ

令和元年度目標	アンケート及び参加者に直接聞き取りを行い、記録するなど満足度をチェックするとともにフェイスブック、ホームページで公開する。
自己評価・課題・改善案	体験イベント参加者を対象にアンケート調査を行った。満足度は5段階評価で「とても満足した」が74%、「満足した」が14%、「ふつう」が8%、「少し満足できなかった」が0.5%、「満足できなかった」が0.5%、無回答が3%であった。上位2段階の評価が88%を占め、満足度は非常に高い。引き続きニーズや満足度等の聞き取りを行いながらイベントを実施していく。

## ④博物館実習

### A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

令和元年度目標	人員や日程等を鑑み、可能な範囲で博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高めてもらう。
自己評価・課題・改善案	博物館実習4名、大学生インターンシップ3名を受入れ、寄贈資料の整理及びミニ展示の企画・制作を行った。今後も同じ方針で対応する。

## ⑤ ボランティア

### A. ボランティアの育成及び活動の支援

令和元年度目標	ボランティア養成講座により新たなボランティアを5名以上養成する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。
自己評価・課題・改善案	ボランティア養成講座には5名の参加があり、うち4名が修了しボランティアとして登録された。2月には海南市の室山古墳群及び漆器工房でボランティア研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。現在古墳ガイドに関心のあるボランティアが多いが、今後は体験学習補助等に関心のある参加者についても幅広く募集していく。

## ⑥ 県内博物館施設との連携

### A. 連携事業の実施

令和元年度目標	スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。
自己評価・課題・改善案	スタンプラリー、風土記まつりを4館共同で実施した。

## ⑦ 県民ニーズに即した運営

### A. 入館料以外のその他の収入

令和元年度目標	3,210千円(前年度並み): 図録等販売722千円、体験教室等参加料2,489千円
自己評価・課題・改善案	3,635,950円で前年比113%: 図録等販売1,064千円、体験教室等参加料2,571千円

### B. 上記結果を受けた運営

令和元年度目標	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。
自己評価・課題・改善案	展示、講座、遠足、イベント等、すべてにおいて良好な満足度を得られた。今後も引き続きニーズに即した運営を目指していきたい。

## 5. 博物館の運営

館長による所見	<p>現在の環境下では適切に管理運営できている。ただし、施設の老朽化等により文化庁が求める展示・収蔵環境を満たしていない部分があり、新館建設までの短期的な対策が課題である。</p> <p>また、インターネットを使った情報発信が最も有効であることがアンケート結果などから明らかであることから、改めて広報の手段について考える必要がある。</p>
評価部会による所見	<p>新館建設と開館を最大目標に据えて効率的な「つなぎ」の運営が求められる。新館計画がある程度具現化した段階で、計画の内容を広報に取り上げ、県民の意識を高めてほしい。ニュース性という観点からも効果が期待できる。これからの情報発信はインターネットが有用であるが、紙媒体も同時に必要であろう。</p> <p>博物館のような施設は常に「いつも同じだ」という目で見られがちである。月ごとにほんの少しだけ変化をつくって、変わったところを見つけたら記念グッズをあげる、なんていう子供向けの企画など、運営面での工夫をしてはどうか。</p> <p>新博物館では、学芸、学習支援、広報など役割分担を明確化し、一体となって頑張っていたきたい。</p>

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

令和元年度目標	紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。
自己評価・課題・改善案	当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し4月の全体会議で職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーに合わせて消防局と合同で防火訓練を行い、有事の際の役割、動きの訓練を行った。

#### B. 個人情報の適切な保護・データ管理

令和元年度目標	和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。
自己評価・課題・改善案	和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施。

#### C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

令和元年度目標	職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。
自己評価・課題・改善案	教育庁関係人権研修及び館内の人権研修を9月に行い、情報共有を行った。また、専門的な研修等スキルアップのための外部研修には業務の都合等により出席できていない現状にある。

### ②県民ニーズに即した運営

#### A. 園内利用者数: 当該年度の利用者数

令和元年度目標	187,900人(H30年度並み)
自己評価・課題・改善案	197,181人(前年度比104.9%)。昨年若干改善したが、H25年頃から入館者と同様に減少傾向にある。今後も魅力ある史跡整備、広報に努める必要がある。

#### B. 民家利用件数: 当該年度の利用件数

令和元年度目標	体験学習(昔のくらし体験)10回、講演等5回(H31年度並み)。
自己評価・課題・改善案	体験学習(昔のくらし体験)9回、公演等4回。ほぼ目標どおりであるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2.3月の体験、講演が中止となった。今後も継続して実施するが、民家の利用が適正に行われていない場合も見受けられることから、十分に管理できる範囲内で活用を行う必要がある。

### ③施設設備の維持管理

#### A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

令和元年度目標	建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善案	日常、職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録。毎年、建築基準法第12条に基づく定期点検業務を実施。

#### B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持、衛生管理

令和元年度目標	館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善案	日常、職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕対応。今後も引き続き実施。

#### C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

令和元年度目標	館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。
自己評価・課題・改善案	来園者、来館者に安心安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行っている。

#### D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

令和元年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設基本計画を策定する中で、資料館、民家を含む活用計画を検討する。
自己評価・課題・改善案	県立考古民俗博物館(仮称)基本計画の中で、史跡地内に含まれる移築民家の活用について定めているところである。

### ④快適性の向上

#### A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

令和元年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。
自己評価・課題・改善案	バリアフリー対策はハード面、ソフト面ともに可能な範囲で対応済みである。特にソフト面については、9月に職員人権研修を行い職員全体で対応マニュアルの確認及び合理的配慮の必要性を確認した。令和元年度も引き続き実施する。また、今後は、新館構想に合わせ、より分かりやすく、すぐしやすい合理的配慮の提供を検討、実施する。

#### B. 快適性の向上について上記以外の整備

令和元年度目標	県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。
自己評価・課題・改善案	園内利用者に向けた駐車場閉鎖時刻を表示する案内板を設置、同駐車場内トイレに立ち座り時補助の手すりを整備するなど設備改善を実施した。

### ⑤民家

#### A. 計画的な公開

令和元年度目標	むかしのくらし体験や他組織への民家利用を積極的に行い普及を図る。
自己評価・課題・改善案	体験学習(昔のくらし体験)9回、公演等4回を実施し積極的民家利用を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2,3月の体験、講演が中止となったため、若干目標値を下回った。今後も継続して実施するが、民家の利用が適正に行われていない場合も見受けられることから、十分に管理できる範囲内で活用を行う必要がある。

#### B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

令和元年度目標	小学校の社会見学をより広めるとともに、他団体の民家利用についても促進する。
自己評価・課題・改善案	平成31年3月に保存活用計画で基本方針を策定したところであり、今後具体的な活用内容を検討していく。

## ⑥広報・情報発信

### A. 県民からの直接的情報提供:問い合わせ(電話、来館等)に対する適切な対応

令和元年度目標	相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。
自己評価・課題・改善案	個々の問合せに適切に対応した。特に問題はなかった。今後も引き続き同様に丁寧な対応を行う。

### B. メディアへの情報発信

令和元年度目標	各月ごとに加えて参加者が少ないと見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。
自己評価・課題・改善案	各イベントごとに記者クラブへ資料提供を行った。加えて新聞社やテレビ局に出向いて広報を行った結果、テレビ、新聞等数多く取り上げられより良い広報となった。

### C. ホームページによる広報:ホームページアクセス件数、更新回数。

令和元年度目標	ホームページ及びFacebookの閲覧数ともに平成30年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。
自己評価・課題・改善案	アクセス36,083回(前年比78%)。イベントごとに情報や結果を掲載するよう努めた。アクセス数が2割以上減少しているのは、昨年5月から新たな自動解析ソフトによるアクセス数を使った影響が大きい。今後は今回の数字を基準に評価する必要がある。一方でFacebookでの情報提供も積極的に行っており、アクセス数の減少が必ずしも情報発信力の低下につながるとは即断できない。今後も引き続き情報発信を行うとともに、Facebookの閲覧数も含め総合的にその効果を判断していくこととする。

### D. 広報印刷物の制作:ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

令和元年度目標	イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布する。
自己評価・課題・改善案	当初予定どおり実施したが、学校への広報については、来館の状況を把握し直接学校を訪問した。イベントごとにチラシの配付も行った。GWや夏休みイベントの参加者の大半が、学校からの配付チラシを見て参加したというアンケート結果が得られた。

### E. 使命、目標、計画等の公開

令和元年度目標	ホームページに公開する。
自己評価・課題・改善案	令和2年3月に公開した。